- 御礼：「絵本の読み聞かせ」を復活させて頂き、心から感謝をします。絵本がいかに大切かということをお大分の妊娠しているお母様、子育て中のお母様に、もっと周知して頂きたいと思うだけに安堵しました。
- 国会議員と連携をしている全国団体があります。その団体の会長が先日青森から来県しました。この理事長は4施設を運営している理事長ですが、青森の現状を書面にして話してくれました。

国土交通省東北地方整備局の調査によると、1年間で東北地方は、108,000人減少して、減少率は青森県が0.72%で断トツ1位だとのこと。

その中で、下記、青森の主張です。大分でも考えて頂けたら思う箇所は赤字にて記載しています。

【保育人材の確保・処遇改善について】

- ① 地域限定保育士制度の導入：大分はどうなっているか？聞いたことがないので教えて欲しい。
- ② 子育て支援員の活用：ここは同感。子育て支援員がもっと活用できれば保育士不足を補填できる。
- ③ 保育補助者の雇用制度：補助者の中に「看護師」の導入推進をお願いしたい。
- ④ 中学生への「保育士体験プログラム」：先日家庭科の授業で中学生が3組（90名）来園。継続を。
- ⑤ 県独自の処遇改善策 など

【深刻化する保育人材問題】

- ① 養成校の減少や学生の減少
- ② 食物アレルギー児への対応
- ③ 特別な配慮を要する園児の増加
- ④ 医療的ケア児の受け入れ態勢構築
- ⑤ 幼保小架け橋期プログラムの策定
- ⑥ 保育業務の煩雑化
- ⑦ 多機能化に向けた人材確保問題
- ⑧ 所得水準の低さ など

- 3、「子どもの権利条約」を意識した文言をどこかに入れておいていただきたい。

- ① 生きる権利 ② 育つ権利 ③ 守られる権利 ④ 参加する権利

- 4、教育・保育の量の見込み及び提供体制の確保について（資料参照）

- ① 未就学児童の人口推計より（今後5年での減少児童数） 資料1 ページ目

	令和6年度	令和11年度	減少児童数
0歳児	3,150人	2,934人	△216人
1歳児	3,439人	3,003人	△436人
2歳児	3,647人	3,037人	△610人
3歳児	3,657人	3,078人	△579人
4歳児	3,813人	3,140人	△673人
5歳児	3,925人	3,203人	△722人
計	21,631人	18,395人	△3,236人

5、 ◆1号認定児の大幅な減少について（5年での減少児童数） 資料5 ページ目

1号児	令和7年度末	令和11年度末	減少児童数
3歳以上	2,126人	1,648人	△478人

2号ニーズ 含む 合計	令和7年度末	令和11年度末	減少児童数
3歳以上	3,633人	2,816人	△817人

◆3歳以上児（2号認定）における量の見込み（5年での減少児童数）

2号児	令和7年度末	令和11年度末	減少児童数
3歳以上	7,176人	6,982人	△194人

◎この数字をみても、公立の認定こども園化の推進については見直しをし、児童数減少が及ぼす私立への影響や検討を間違えないようにしていただき、将来、禍根を残さないようにしていただきたいと思ひます。

6、 教育・保育の提供体制について 資料6 ページ目

提供体制2：保育施設の施設整備や新規開設については、新たな保育施設の認可の中で主に1, 2歳児の定員確保ということであるのであれば、「公立の幼保連携型は考えていない」という理解ができます。1号子どもが減少しているのであれば、公立に幼保連携型は不要であると考えます。

提供体制4：定員構成の見直しですが、学校法人のこども園は10月1日の園児募集や進級調査が進まない限り次年度の定員数の調整などうまくいかないことをご理解いただけたらと思ひます。

提供体制5：人材確保に向けた支援の実施ですが、「新たな人材の発掘」の中に「看護師」の採用促進が人材確保の大きな力になるようにしていただけると支援になります。それと「子育て支援員」の地位確保、尊重をしていただけると現場の人材不足は解消され、現場はかなり楽になり、園児受け入れもできるようになります。
また潜在保育士等の復職を促す取組みについて具体的な政策があると思ひるので教えて下さい。

提供体制7：保育コンシェルジュの資格について教えて下さい。配置場所はどこになるのでしょうか？各施設を熟知していなければ、各施設の案内や相談にはならないかもしれません。詳細を知りたいと思ひます。

以上です。 よろしくお願ひ致します。